

足利戻ってきてねプロジェクト

7班 コミュニティデザイン学科

中村 皓彦 内山 槇

足利市

建築都市デザイン学科

米谷 知樹 安田 唯菜

総合政策部 企画政策課 柏瀬 誠氏

社会基盤デザイン学科

花井 裕也 水上 大輝



背景

足利市は栃木県の南西に位置しており、人口は約15万人、面積約178平方キロメートルの地方都市である。古くから織物のまちとして知られており、工業や観光業に力を入れた総合的な商工業都市である。現在、足利市の総人口は減少傾向にあり、若者の都市部への人口流出が原因とされている。一方、都市部から地方への移住定住に関する関心も高まってきている。今回は足利市への移住定住促進の第一歩として大学生の「移住と職業観」に着目した。

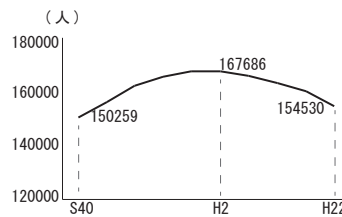


図1 足利市総人口推移

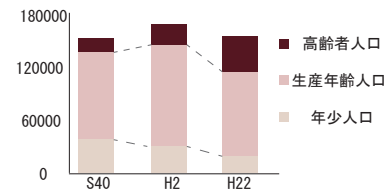


図2 足利市年齢別人口推移

目的

大学生が自らの将来を決める際の最重要の要素は「職業選択」であり、その延長線上に「移住・居住地選択」があると考えた。また調査設計にあたり、足利市出身者対象の調査では十分な回答数が見込めないと判断した。

そのため、今回の私たちのプロジェクトでは、大学生の「移住と職業観」に着目しアンケート調査を行うことで、若い世代の志向にはどのような傾向があるか分析する。そして、大学生にとってより効果的な情報を提案することで、将来的な足利市への就職希望者の増加を見込む。

方法

調査方法 : アンケート調査 (Google form)

実施期間 : 2020年11月27日～12月8日

調査対象者 : 大学生・大学院生

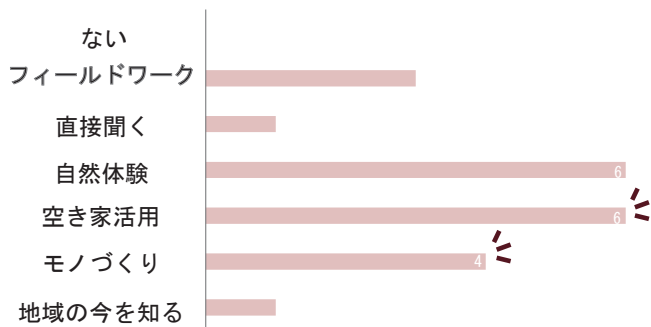
有効解答件数 : 205件 (男性107名、女性96名、その他2名)

平均年齢 : 20.7歳

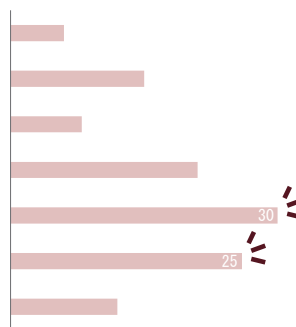
アンケート項目として大学入学前と今でそれぞれ地元で就職したいと思うか(思っていたか)、将来的には戻りたいか、上記それぞれの解答理由、どのようなプログラムがあれば地方に住むことに興味を惹かれるかなどの設問を用意した。

分析結果・提案

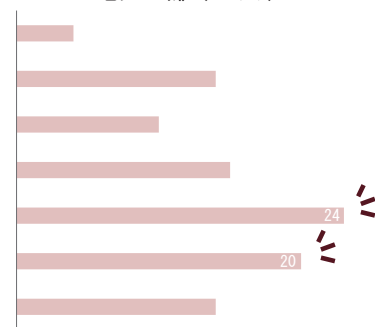
こだわりのない (8人)



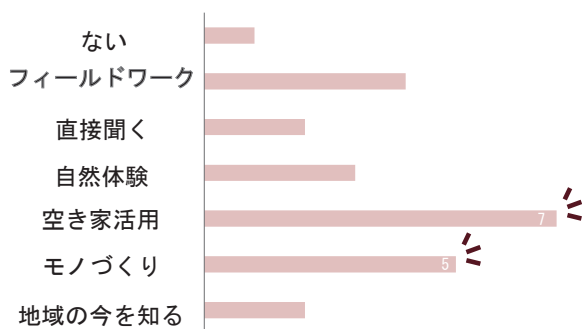
仕事がない・賃金が安い (62人)



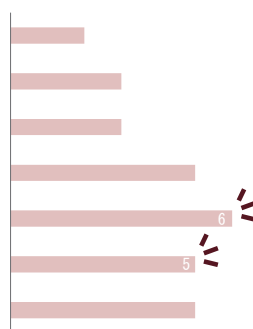
都会に出たい・経験を積みたい
地元が嫌 (46人)



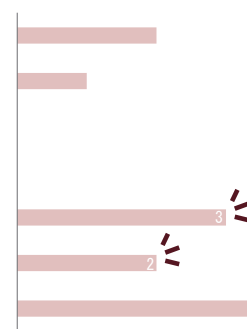
仕事・やりたいことがない (11人)



地元へのこだわりのない (15人)



地元の生活が嫌 (8人)



Google formのアンケート項目でクロス集計をかけたものである。上段は「現在、あなたは卒業後に地元で働きたいと思っていますか。」という問いに対して「いいえ」と回答した人の理由ごとの地方に移住するとしたらどのようなものがあれば興味を惹かれるかという問いのクロス集計の結果、下段はさらに「あなたは将来的に地元に戻りたいと思いますか？」という問いに対しても「いいえ」と答えた人と理由ごとの地方に移住するとしたらどのようなものがあれば興味を惹かれるかという問いのクロス集計の結果である。このことから地元に戻りたくないそれぞれの理由ごとに、興味のあるプログラムを提案することで、大学生たちが地元で目を向けるきっかけになると考えられる。